

第82回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】 2021年11月30日（火） 18：00 - 19：20

【場所】 Web会議

【出席者】

委員： 堂前委員（会長）、鳴海委員（職務代理）、根本委員、藤倉委員、佐藤委員、仁部委員、野村委員、大谷委員、木村委員、瀬田委員、渡邊委員

事務局： 環境資源部 野田、環境政策課 宮坂、池澤、土志田、井上、香山、藤森、
環境・自然共生課 藤原、野地

傍聴： 3名

【欠席者】

委員： 宮下委員

【資料】

資料 1： 第3次町田市環境マスタープランの策定スケジュール（予定）

資料 2： 「第3次町田市環境マスタープラン」（素案）のパブリックコメント実施結果

資料 3： 「第3次町田市環境マスタープラン」（原案）

資料 4： 第81回町田市環境審議会時（8月時点）の素案

資料 5： 答申案（第3次町田市環境マスタープラン）

参考資料 1： 諮問書（第3次町田市環境マスタープラン）

参考資料 2： 第 10 期町田市環境審議会委員名簿

【開会】

- 堂前会長から、出席者の確認を行った。

【報告】

(1) 策定スケジュールについて（資料1）

- 事務局から、資料1に基づいて説明を行った。

(2) パブリックコメントの実施結果について（資料2）

- 事務局から、資料2に基づいて説明を行った。

仁部委員： 第二次町田市環境マスタープランの時よりも約2倍のパブリックコメントがあったものの、カーボンニュートラルなど世の中の環境が注目される中においては、個人的にはもう少し反応があってもよかったのではないかと感じるが、こ

のことについて、市から意見やコメントはないか。

事務局：連日の社会情勢や環境問題のニュースがある中で、一担当者としてはもっと多くの方からご意見があってもよかったと考えている。今回の資料に年齢構成や男女比は載せてはいないが、幅広い年齢の方からご意見をいただいております、また、事業者の方からもご意見をいただいております。事務局としては、とても広い世代の方に興味をもっていただいたと考える。

仁部委員：パブリックコメントは、若干ハードルが高いと思う。第3次町田市環境マスタープラン原案にも載っているが、SNSを活用した発信や双方向のコミュニケーションが必要であると考えている。

堂前会長：基本目標2の成果指標について、「市民協働による生きもの調査への参加者数」等、市民の参加のようなものが指標になる理由の1つは、例えば、カワセミがどれくらいいるのかというのを市民にモニタリングしてもらおうとすると結局参加者数に比例してしまうというところでどうしようかという話があったと思うが、できるだけ多くの市民がモニタリングに参加できるような土台をつくるために、市民の関心を高めていく必要があるだろうというところがあったと思う。そういったところ等も関心を高めて、身近な生き物にも目をむけて市民によるモニタリングの取組も将来つくっていききたい、というようなことも入れてはいかかが。

事務局：検討する。

木村委員：パブリックコメントに、建物の断熱の徹底などのパッシブ対策や太陽光発電だけでなく、太陽熱給湯など目的に合わせた効率的な自然エネルギーによるZEB、ZEHに対する要望が多く寄せられた。本マスタープランには取り上げられなかったが、都市づくりマスタープラン他の計画と連携した文言などで、是非パブリックコメントの内容を活かしてほしい。

事務局：関連する市の計画である、「都市づくりのマスタープラン」へもご意見の共有をした。また、「第3次町田市環境マスタープラン」では、ZEBやZEH等を基本目標1の施策[1]「省エネルギーの普及・導入を進めます」、施策[2]「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」及び施策[3]「将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます」に含めている。また、重点プロジェクト1の「再生可能エネルギー等の利用拡大」ではスマートシティのモデル構築の際に、断熱性能の高い住宅、ZEB、ZEH等も意識した事業の検討を関連部署や民間事業者と連携し、行っていくことを想定している。

(3) 素案からの変更点について (資料3、資料4)

- 事務局から、資料3および資料4に基づいて説明を行った。

藤倉委員：見やすくなって非常に良いと思っている。資料3のp. 28の図25について、「市の取組」「市民の取組」「事業者の取組」部分は、現在の表記だと「市の取組」が半分を占めているが、市の取組、市民の取組、事業者の取組を均等に3分割して、市民の取組を中央に位置したほうがいいのかと思う。

事務局：ご指摘のとおり、バランスがおかしいため、修正させていただく。

藤倉委員：コラムは、1月の環境審議会までに事務局で入れるということか。

事務局：現在作成中であり、次回の審議会で示す予定である。そこで意見をいただき、確定させたい。

藤倉委員：コラムは楽しみにしている。目次にも、コラムのタイトルおよびページ番号を入れていただくといいかと思う。

大谷委員：検討の時にすでに出ていたかもしれないが、改めて確認の意味も込めて聞きたい。世の中の情勢が変化している中で、色々な課題がでてきて、内容を修正していく方針は1番現実的であると思っているが、国や都の上位の目標を踏まえて、報告の必要はあるのか。

事務局：環境基本計画については、法律上、報告の定めはないが、国からの調査に回答するなどしている。生物多様性地域戦略については、策定や変更の場合は、環境大臣に写しを送付しなければならないということで、届け出ることが決められているため、報告をする。

大谷委員：市民力を十分に発揮した独自性や発展性のあるものを期待して、私も市民として参加していきたい。

鳴海委員：パブリックコメントにおいては、国や都と市の目標の関係がわかりづらいという話がでている。また、地球温暖化対策計画が改定され、大幅な目標の修正があった。そういった国や都との目標との関係の補正や調整にどのように対応していくのか補足をお願いしたい。

事務局：資料3のp. 89のとおり、今の時点では「3年が経過した時点を目途に行う進捗点検の結果をもとに」必要に応じて見直す。特に、国の見直しに際してマニュアルやガイドラインが改定されると、修正する箇所が確認できることから、それに伴って計画内容を見直し、環境審議会を開催したうえで、計画の改定を行う予定である。

鳴海委員：パブリックコメントにある「町田市目標が低いのではないか」というような意見については、地球温暖化対策計画の改定も含めて、3年後に見直すのか。

事務局：3年というのはあくまで目安として置いている。必要な場合があれば、前倒しして検討することもあるかと思う。現在の数値は、現時点の国の計画等を基に検討したものとなる。

【議題1】

(1) 答申案について (資料5)

- 事務局から、資料5に基づいて説明を行った。

藤倉委員：資料5について、2に記載されている「その他の市の関連計画」は、町田市の中の別の計画という意味だと思うが、他の市の関連計画という意味に見えてしまうため、「町田市の中の他の関連計画」などに修正してほしい。また3について、市の中だけではなく、国、県、別の市町村との連携について、効率的・効果的な計画を実行するためにも、「町田市以外のところとも連携を図る」というニュアンスを加えられると良いと思うが、難しければ後者は採用しなくてもよい。

堂前会長：他市との連携は、生物多様性の面からも重要であるため、検討してほしい。

事務局：頂いた意見を検討し、再度、会長と調整させていただく。

根本委員：資料3のp. 28の図25市の取組、市民の取組、事業者の取組を均等に3分割するという藤倉委員の意見に賛成であり、また、今回の資料5の3にも「市民や事業者と一体なった」と書いてあるのはとても大事だと思っている。世界全体が気候変動含めて大きく動いていて、これまでは行政が規制を作って、市民や事業者の方に協力していただくという形だったが、現在、経済界全体が環境保全でビジネスをつくっていくという方向に動いている。場合によっては、経済界から行政に提案があったりしていくと思う。そのため、今は「一体となった」という表記で大丈夫かと思うが、数年後には「相互に影響し合いながらより環境保全的な社会、枠組みを作っていきたい」というようなマスタープランになればいいと個人的に思う。

事務局：「将来的には相互に刺激しあって、脱炭素化を含めて大きな目標を達成する」というような表現を落とし込めるか検討していく。

【閉会】

- 堂前会長から、閉会の挨拶。

以上